

(品目別需給編)

1 小麦

(1) 国際的な小麦需給の概要(詳細は右表を参照)

<米国農務省(USDA)の見通し>

2020/21 年度

生産量 前年度比 前月比

・豪州等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

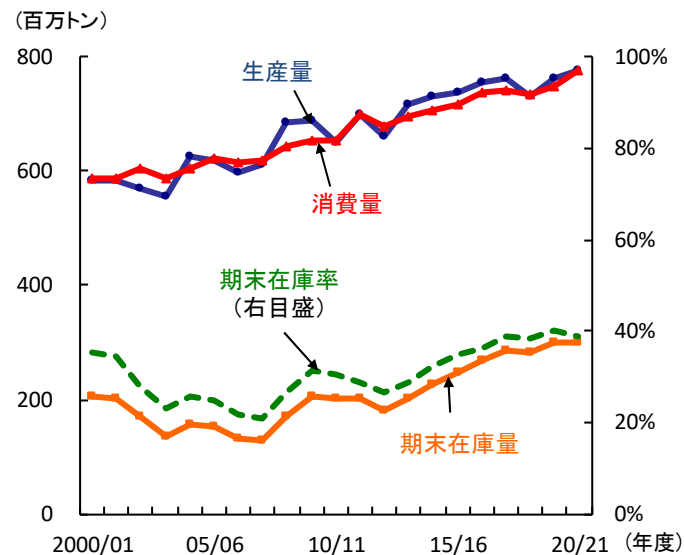
消費量 前年度比 前月比

・ベトナムで下方修正も、中国、豪州等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 前月比

・豪州、カナダ等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み

期末在庫量 前年度比 前月比



資料:「PS&D」(2021.3.9)をもとに農林水産省で作成

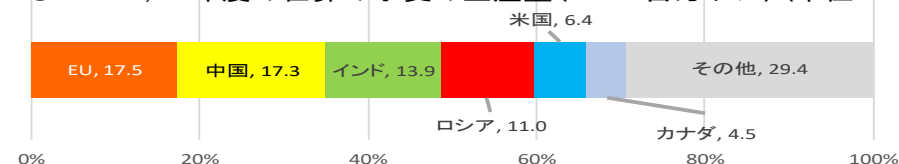
◎世界の小麦需給

(単位:百万トン)

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	731.0	763.9	776.8	3.3	1.7
消 費 量	734.7	746.9	775.9	6.6	3.9
うち飼料用	139.2	139.0	153.0	5.2	10.1
輸 出 量	173.7	191.5	197.7	2.8	3.2
輸 入 量	171.2	185.3	191.6	2.1	3.4
期末在庫量	283.3	300.3	301.2	▲ 3.0	0.3
期末在庫率	38.6%	40.2%	38.8%	▲ 0.7	▲ 1.4

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(9 March 2021)

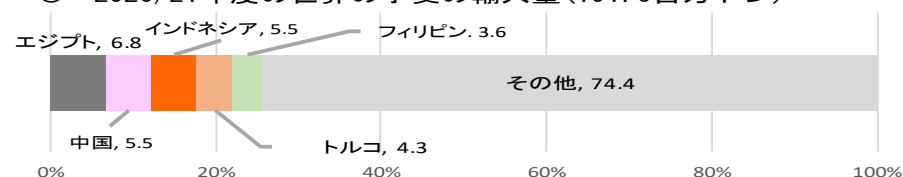
○ 2020/21年度の世界の小麦の生産量(776.8百万トン)(単位:%)



○ 2020/21年度の世界の小麦の輸出量(197.7百万トン)



○ 2020/21年度の世界の小麦の輸入量(191.6百万トン)



(2) 国別の小麦の需給動向

< 米国 >

【生育・生産状況】米国農務省(USDA)によれば、2020/21年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比5.5%減の49.7百万トンの見込み。品種別には、冬小麦は対前年度比11.1%減の31.9百万トン、春小麦は同4.4%増の15.9百万トン、デュラム小麦は同27.5%増の1.9百万トンの見込み。

同「Wheat Outlook」(2021.3.11)によれば、越冬期に入っている2021/22年度の冬小麦は、主要生産地であるグレートプレーンズや中西部、南部では、それまでの乾燥天候の影響に加え、2月中旬以降に記録的な寒波が襲来したことにより、スノーカバーによる保護のない地域では、凍害や冬枯れが発生したとみられる。3月7日現在、カンザス州、テキサス州では、作柄を示すやや不良から不良の割合が、それぞれ、前年度の18%を上回る27%、同34%を上回る39%となった。

また、もう一つの懸念材料は、継続する干ばつで、カンザス州、コロラド州等の冬小麦生産地では甚大(D3)から例外的な干ばつ(D4)となり、3月2日現在、カンザス州では前週を5%上回る47%の地域で表層の土壌水分が不足した。なお、3月中旬以降、冬小麦生産地では降雨があり干ばつ状況は改善された。

一方、3月2日現在、北部平原の春小麦及びデュラム小麦の生育地の多くでは、中程度(D1※右図参照)から厳しい干ばつ(D2)となっている。同地域では、数週間後に播種が開始されるが、南北ダコタ州やモンタナ州では最近、平年を上回る気温となっており、雪溶け水で作付時の土壌水分不足が改善されると見られている。

【貿易情報・その他】USDA「Wheat Outlook」(2021.3.11)によれば、2020/21年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、26.8百万トン。品種別には、ホワイト小麦は中国、韓国へのアジア向け輸出需要から輸出量が増加したものの、ハード・レッド・ウインター(HRW)は、前年度をかなり下回る契約量から減少した。2021年2月の輸出先国は、メキシコ(27.0万トン)、中国(22.6万トン)、日本(21.9万トン)の順。

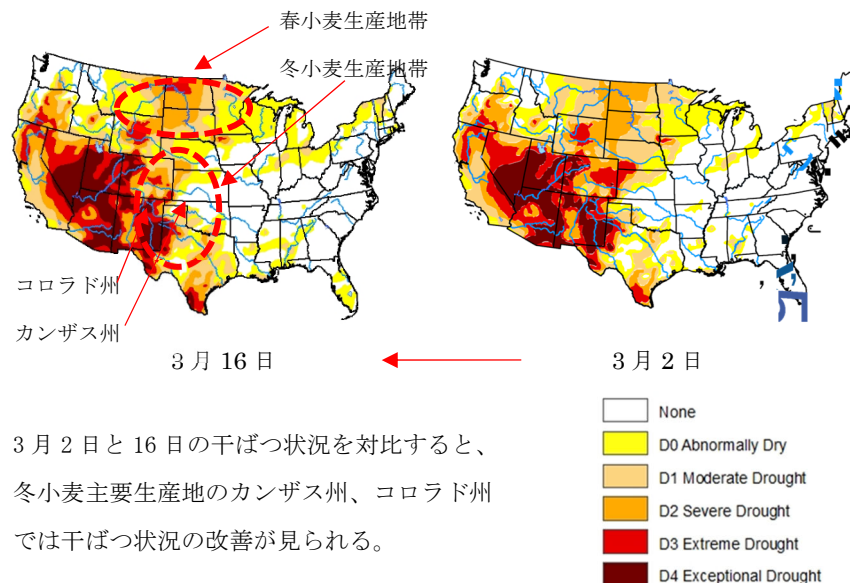
小麦－米国（冬小麦が全体の7割、春小麦は3割）

(単位：百万トン)

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	51.3	52.6	49.7	-	▲ 5.5
消費量	30.0	30.6	31.4	-	2.7
うち飼料用	2.4	2.8	3.4	-	23.6
輸出量	25.5	26.3	26.8	-	2.0
輸入量	3.7	2.9	3.3	-	14.3
期末在庫量	29.4	28.0	22.8	-	▲ 18.7
期末在庫率	53.0%	49.2%	39.1%	-	▲ 10.1
(参考)					
収穫面積(百万ha)	16.03	15.13	14.87	-	▲ 1.7
単収(t/ha)	3.20	3.47	3.34	-	▲ 3.7

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」(9 March 2021)

図 米國小麦生産地帯の干ばつ状況(3月2日及び3月16日)



3月2日と16日の干ばつ状況を対比すると、冬小麦主要生産地のカンザス州、コロラド州では干ばつ状況の改善が見られる。

資料：USDA「Drought Monitor」をもとに農林水産省で作成。

< カナダ >

【生育・生産状況】カナダ農務農産食品省(AAFC)「Outlook For Principal Field Crops」(2021.3.18)によれば、2020/21 年度の生産量は、前年度より 8.8 %増加の 35.2 百万トンの見込み。品種別には、デュラム小麦が、収穫面積と単収の上昇により前年度に比べ 32%増加し 6.6 百万トン、普通小麦が、収穫面積は減少したものの、単収の上昇により前年度に比べ 4.5%増加し 28.6 百万トンの見込み。普通小麦は 2013/14 年度以降 2 番目に多い収穫量。

「Canadian Grain Commissions sample survey analysis to January 6, 2021」によれば、デュラム小麦は、80%以上が No1、No2 小麦に格付けされ、その平均タンパク含有量は、13.8%と前年度(14.1%)を下回るものの、直近 5 年平均と同水準である。また、普通小麦(カナディアン・ウエスタン・レッド・スプリング：CWRS)は、80%以上が No1、No2 小麦に格付けされ、その平均タンパク含有量は 13.3%で、前年度の 13.5 %、直近 5 年の 13.4%を僅かに下回っている。

2021/22 年度の実産量は、前年度より 6.9%減少の 32.7 百万トンの見込みで、品種別には、デュラム小麦は前年度に比べ 4.1%減少の 6.3 百万トン、普通小麦は同 7.6%減少の 26.4 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】AAFC によれば、2020/21 年度の輸出量は、デュラム小麦が、欧州向けの需要から、前月より 0.2 百万トン上方修正され 5.6 百万トン、普通小麦が、中国の需要等から、0.1 百万トン上方修正され 21.1 百万トンの見込み。

また、2021/22 度の輸出量は、デュラム小麦が、欧州で生産量の増加が見込まれ競争が強まることから、前月から 0.2 百万トン下方修正され 4.8 百万トン、普通小麦が、引き続き中国の強い需要とロシアの輸出税賦課により、前月より 0.1 百万トン上方修正され 19.1 百万トンの見込み。

カナダ穀物委員会(Canadian Grain Commission)によれば、2020/21 年度(2020 年 8 月～2021 年 7 月)の 8 月から 1 月までの普通小麦の輸出量は 1,012.6 万トン。

小麦－カナダ（春小麦を主に栽培）

(単位：百万トン)

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21			
			予測値、() は AAFC		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	32.4	32.7	35.2	(35.2)	－	7.7
消 費 量	9.2	9.3	9.9	(8.8)	▲ 0.1	6.9
うち飼料用	4.2	4.2	4.7	(4.0)	▲ 0.1	13.0
輸 出 量	24.4	24.6	27.0	(26.7)	0.5	9.6
輸 入 量	0.5	0.7	0.6	(0.1)	0.1	▲ 19.1
期末在庫量	6.0	5.5	4.3	(5.3)	▲ 0.3	▲ 21.3
期末在庫率	18.0%	16.2%	11.7%	(15.0%)	▲ 1.0	▲ 4.5
(参考)						
収穫面積(百万ha)	9.88	9.66	10.02	(10.02)	－	3.7
単収(t/ha)	3.27	3.38	3.51	(3.51)	－	3.8

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(9 March 2021)
AAFC 「Outlook For Principal Field Crops」(18 March 2021)

表 カナダ産普通小麦及びデュラム小麦の輸出相手国(輸出検証高、シェア)
2020/21年度(2020年8月～2021年 7月)の8月～1月

	普通小麦			デュラム小麦		
	国名	輸出量 (万トン)	輸出量シェア (%)	国名	輸出量 (万トン)	輸出量シェア (%)
1	中国	148.3	14.6	イタリア	94.2	31.9
2	インドネシア	120.2	11.9	モロッコ	70.2	23.7
3	日本	87.8	8.7	チュニジア	23.4	7.9
4	ペルー	85.4	8.4	アルジェリア	20.2	6.8
5	コロンビア	70.1	6.9	トルコ	15.0	5.1
6	その他	500.8	49.5	その他	45.8	15.5
計		1012.6	100.0	計	295.7	100.0

注1: Canadian Grain Commissionが認可したエレベーターから輸出された小麦(Licensed)のみのデータ。

注2 普通小麦の品種は NO.1-3 Canada Western Red Spring No.1 Canada Western Red Winter

No.2 Canada Eastern Red Spring No.2 Canada Eastern Oter, デュラムは Canada Western Amber Durum Others

資料: Canadian Grain Commission「Export of Canadian Grain and Wheat Flour」をもとに作成。

< 豪州 >

【生育・生産状況】USDAによれば、2020/21年度の生産量は、単収が上昇したこと
から、前月予測から3.0百万トン上方修正され、対前年度比117.1%増の33.0百万
トンとなる見込み。単収は主に主要生産地のWA州、NSW州で上昇した。同年度
は、QLD州では、生育期間の大部分で平年の降水量を下回ったものの、多くの生産
地では播種前と成熟期に十分な降雨に恵まれ、1月上旬に収穫は終了。生産量は史上
最高となった。

一方、豪州農業資源経済科学局(ABARES)「Crop Report」(2021.2.16)によれば、同
年度の生産量は前年12月予測から上方修正され、前年度比120%増の33.3百万ト
ンと史上最高の見込み。主要生産州では、WA州で前年度比52.7%増の9.5百万ト
ン、NSW州で史上最高の13.1百万トン、SA州で同50%増の4.8百万トン。

また、同「Agricultural commodities」(2021.3.2)によれば、2021/22年度の生産
量は、播種時の土壌水分が十分とみられるものの、NSW州、VIC州で2020/21年度
の高単収から平均並みに単収が低下することから、25.0百万トンに減少すると見ら
れる。

【貿易情報・その他】USDA「Grain World Markets and Trade」(2021.3.9)によれ
ば、新穀が流通し始めたものの、アジア市場からの需要が強いため、豪州産の輸出価
格は、2月5日時点の275ドル/トンから、283ドル/トン(3月5日時点)と上昇した。

また、輸出量は、ABARES「Agricultural commodities」(2021.3.2)によれば、
2020/21年度の輸出量は、前年度の倍以上の21.0百万トンと10年平均を上回り、
2016/17年度以降最高となる見込み。

干ばつとなった前年度まで、供給不足等により豪州産小麦価格が上昇し輸出が減
少。その間、豪州産の主要市場であるインドネシア(世界第2位の小麦輸入国)は、
アルゼンチンや黒海地域等から輸入したものの、2020/21年度は供給の大幅増加に
伴う価格競争力の上昇で、豪州産が市場シェアを取り戻すと見られる。

小麦－豪州 (冬小麦を主に栽培)

(単位：百万トン)

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	17.6	15.2	33.0 (33.3)	3.0	117.1	
消費量	9.2	8.5	8.5 (9.6)	0.5	-	
うち飼料用	5.7	5.0	5.0 (5.9)	0.5	-	
輸出量	9.0	9.1	22.0 (20.5)	2.0	140.7	
輸入量	0.5	0.9	0.2 (0.5)	-	▲ 77.5	
期末在庫量	4.4	2.9	5.6 (7.5)	0.5	93.1	
期末在庫率	24.4%	16.4%	18.4% (25.0%)	0.1	1.9	

(参考)

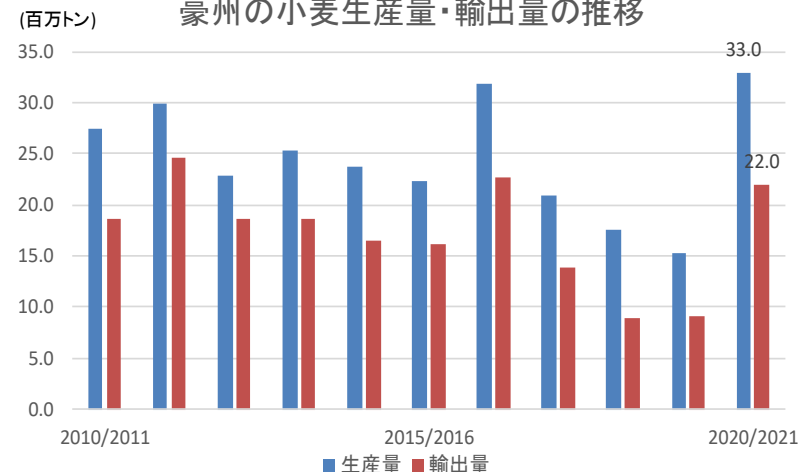
収穫面積(百万ha)※	10.40	10.20	13.00 (13.0)	-	27.5
単収(t/ha)	1.69	1.49	2.54 (2.57)	0.23	70.5

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、

「World Agricultural Production」(9 March 2021)

IGC 「Grain Market Report」(25 February 2021)

豪州の小麦生産量・輸出量の推移



資料：USDA「PS&D」(2021.3.9)をもとに農林水産省で作成

(※) NSW州：ニューサウスウェールズ州 WA州：ウェスタンオーストラリア州
QLD州：クイーンズランド州 SA州：サウスオーストラリア州
VIC州：ビクトリア州

< EU >

【生育・生産状況】EU 委員会「EU Cereals Production Area and Yield」(2021.2.25)によれば、2020/21 年度の生産量(EU27)は、前月予測から 0.6 百万トン上方修正され 125.2 百万トンの見込み。

品種別には、普通小麦は、ルーマニア等で上方修正されたことから、前月予測から 0.7 百万トン上方修正され 118.0 百万トン、デュラム小麦は、ギリシャ等で下方修正されたことから、前月予測から 0.1 百万トン下方修正され 7.2 百万トンの見込み。また、AMIS「Market Database Supply and Demand Overview」(2021.3.5)によれば、英国の生産量は 9.7 百万トンの見込み。

なお、USDA によれば、2020/21 年度の生産量(EU27+英国)は、前月予測からの変更はなく、対前年度比 12.1%減の 135.8 百万トンの見込み。

天候は、2 月前半まで欧州全域で気温は平年を下回ったが、2 月後半以降、平年を上回っている。また、英国西部、スペイン西部を除き小雨であるが降雨に恵まれ、土壌水分は十分である。

温暖な天候により欧州東北部を除き、冬作物は平年より早く休眠期を終え、再生長を開始しているが、生育状況は良好である。しかし、平年より早い生長で開花期が早まり、品質低下の懸念がある。

【貿易情報・その他】USDA「Grain:World Markets and Trade」(2021.3.9)によれば、EU の輸出価格は、米国、黒海沿岸諸国の生育状況の懸念等から、2021 年 2 月 5 日時点の 280 ドル/トンから 292 ドル/トン (2021 年 3 月 5 日現在)へ上昇した。

2020/21 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比 29.7%減の 27.0 百万トンの見込み。

2020/21 年度(2020 年 7 月～2021 年 6 月)の 7 月から 12 月の普通小麦の輸出量は、前年度対比 12.0 減の 1,357.9 万トンとなったが、国別にはフランスが 26.9%、ルーマニアが 54.7%減少したものの、ドイツが 43.7%、ポーランドが 55.4%増加した。

小麦－EU (冬小麦を主に栽培)

(単位：百万トン)

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値、() は IGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	136.6	154.5	135.8 (123.4)	-	▲ 12.1
消費量	121.1	122.5	118.5 (102.9)	-	▲ 3.3
うち飼料用	51.5	52.5	49.0 (40.0)	-	▲ 6.7
輸 出 量	23.3	38.4	27.0 (27.9)	-	▲ 29.7
輸 入 量	5.8	4.8	6.0 (6.1)	-	25.0
期末在庫量	15.9	14.3	10.6 (10.0)	-	▲ 25.9
期末在庫率	11.0%	8.9%	7.3% (7.6%)	-	▲ 1.6
(参考)					
収穫面積(百万ha)	25.52	26.12	24.61 (22.76)	-	▲ 5.8
単収(t/ha)	5.35	5.91	5.52 (5.42)	-	▲ 6.6

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、

USDA 「PS&D」(9 March 2021) 表内のデータは EU27+英国

IGC 「Grain Market Report」(25 February 2021) ()内は EU27ヶ国のデータ

図 EU27ヶ国の第3国(英国を除く)輸出量累計
(普通小麦)

期間：7月～12月	2019/20年度 (万トン)	2020/21年度 (万トン)	増加率
フランス	526.9	385.4	-26.9%
リトアニア	125.3	206.7	65.0%
ラトビア	128.2	172.9	34.8%
ドイツ	108.2	155.6	43.7%
ポーランド	95.6	148.6	55.4%
ルーマニア	301.5	136.7	-54.7%
ブルガリア	139.2	48.2	-65.4%
その他	117.8	103.8	-11.9%
総計	1,542.7	1,357.9	-12.0%

(デュラム小麦)

期間：7月～12月	2019/20年度 (万トン)	2020/21年度 (万トン)	増加率
フランス	22.2	12.1	-45.4%
スペイン	17.3	6.2	-63.8%
イタリア	3.6	5.2	45.6%
デンマーク	0.4	1.1	147.3%
ギリシャ	6.5	0.7	-89.8%
ラトビア	0.6	0.3	-54.1%
オーストリア	0.2	0.3	32.6%
その他	4.1	0.5	-87.5%
総計	54.9	26.3	-52.0%

資料：欧州委員会「Cereals exports and imports (COMEXT)」(2021.2.17)をもとに農林水産省で作成

< 中国 >

【生育・生産状況】中国糧油情報センター(2021.3.5)によれば、2020/21年度の小麦の生産量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比0.5%増の134.2百万トン。品種別には、冬小麦は126.8百万トン、春小麦は7.4百万トンの見込み。

中国中央气象台(2021.3.5)によれば、2021/22年度の冬小麦は、小麦主要生産地北部で気温が平年より高く、2月下旬に降雨に恵まれた。生育段階は、北部の東側(河北、安徽等)では一部で越冬期であるものの、大部分の地域で活着期から節間伸長期、西側(甘肅、寧夏等)で越冬期を迎えている。また、南部(四川、雲南等)では、一部で出穂から開花期を迎えている。なお、陝西、甘肅等では小麦さび病が発生している。

また、全国の冬小麦の作柄は、一、二類苗の比率が21%、78%と、前年度同期(24%、75%)に比べ一類苗は3ポイント低下、二類苗は3ポイント上昇した。

【貿易情報・その他】中国農産品供需形勢分析月報(2月)によれば、中国政府は最低価格保証で買い上げた小麦を毎週400万トン前後のペースの競売で放出。小麦価格はわずかに下落し2月分の鄭州食料卸売市場の普通小麦は2560元/トンと対前月比0.8%下落、前年同月比5.7%下落した。また、高品質小麦は3020元/トンで対前月比0.3%上昇、前年同月比20.1%上昇した。

中国糧油情報センターによれば、消費量は、中国国内とうもろこし価格の高騰による小麦の代替需要から、前月予測に比べ、飼料用途が7.0百万トン上方修正され、144.3百万トンの見込み。USDAによれば、中国の消費量は世界の18.8%を占める。

2020/21年度の輸入量は、ここ数ヶ月の輸入ペースが早く、前月予測から0.5百万トン上方修正され、10.5百万トンとなり、1996/97年度以降最高の見込み。今後も、国内とうもろこし価格の高騰から小麦の活発な輸入は続くと思われる。

期末在庫量は、前月予測から4.5百万トン下方修正され、150.4百万トンの見込みで、前年度に比べ僅かに減少した。対前年度の減少は8年ぶり。

小麦—中国(冬小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	131.4	133.6	134.3 (134.3)	-	0.5
消費量	125.0	126.0	145.0 (133.8)	5.0	15.1
うち飼料用	20.0	19.0	35.0 (22.8)	5.0	84.2
輸 出 量	1.0	1.1	1.0 (1.2)	-	▲ 4.8
輸 入 量	3.2	5.4	10.5 (9.6)	0.5	95.2
期末在庫量	139.8	151.7	150.4 (139.1)	▲ 4.5	▲ 0.8
期末在庫率	110.9%	119.4%	103.0% (103.0%)	▲ 6.8	▲ 16.4

(参考)

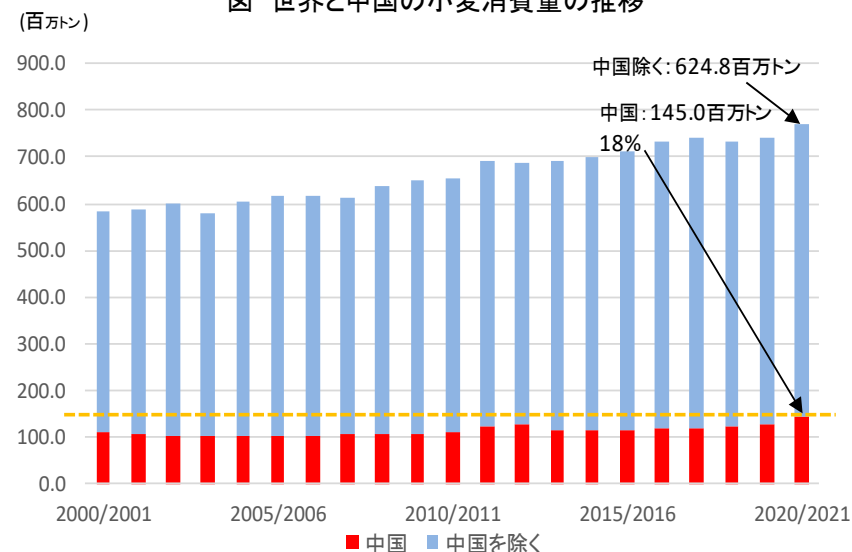
収穫面積(百万ha)	24.27	23.73	23.38 (23.8)	-	▲ 1.5
単収(t/ha)	5.42	5.63	5.74 (5.47)	-	2.0

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、

「World Agricultural Production」(9 March 2021)

IGC 「Grain Market Report」(25 February 2021)

図 世界と中国の小麦消費量の推移



資料: USDA「PS&D」(2021.3.9)をもとに農林水産省で作成

< ロシア >

【生育・生産状況】ロシア農業省によれば、2020/21 年度の冬小麦及び春小麦の収穫量(品質調整前)は、冬小麦が 63.2 百万トン、春小麦が 22.7 百万トンの 85.9 百万トン(2021 年 3 月 9 日時点)の見込み。

2021 年 2 月は、ロシア気象センターによれば、ロシア・ヨーロッパ地域では、北部で寒冷、南部では寒暖が入れ替わる不安定な天候であったが、2021/22 年度の冬小麦の越冬条件は概ね並の状態。また、ロシア・アジア部のウラル地域では中旬以降に寒冷天候、シベリア地域では不安定な天候となったが、越冬条件は概ね並であった。

ロシア農業省によれば、3 月 5 日現在、2020 年秋の長期の干ばつの影響等により冬穀物の 23.5%で発芽や生育不良が生じている。

【貿易情報・その他】現地情報会社によれば、2 月 15 日に 25 ユーロ/トンの輸出関税が導入されると、生産者の売渡し価格は急落し、3 月中旬には、国内相場は下がり始めた。

なお、ロシア連邦統計局によれば、2021 年 2 月のロシアの消費者物価指数は、前年同月を 100 とすると、パン類が 107.7、穀粒及び豆類が 121.2、パスタが 113.3 と上昇していた。

また、ロシア国内の 2021 年 2 月 1 日現在の小麦の在庫量は、ロシア全体では前年同日比で 19%増の 11.5 百万トンと高水準であるが、地域別には、輸出港に近い南連邦管区、北カフカス連邦管区では輸出が進んでおり依然低水準となっている。

USDA によれば、2020/21 年度の輸出量は、前月からの変更はなく、対前年度比 13.1%増の 39.0 百万トンの見込み。なお、現地情報会社によれば、エジプトの入札ではロシア産がルーマニア産に敗れるケースが出てきている。

ロシア政府は、2020 年 12 月に小麦を含む穀物の 1,750 万トンの輸出枠と枠内輸出税の賦課を決定。加えて、1 月には、輸出税の引上げ、2 月には変動式関税の 6 月からの導入が決定された（詳細は海外食料需給レポート(1 及び 2 月号)参照）。

小麦ーロシア(主産地の欧州部で冬小麦、シベリアで春小麦を栽培)

(単位: 百万トン)

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値、() は IGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	71.7	73.6	85.4 (85.3)	0.1	15.9
消費量	40.5	40.0	41.5 (42.9)	-	3.8
うち飼料用	18.0	17.0	18.0 (18.5)	-	5.9
輸出量	35.9	34.5	39.0 (38.9)	-	13.1
輸入量	0.5	0.3	0.5 (0.3)	-	51.5
期末在庫量	7.8	7.2	12.6 (12.8)	0.1	74.0
期末在庫率	10.2%	9.7%	15.6% (15.6%)	0.1	5.9

(参考)

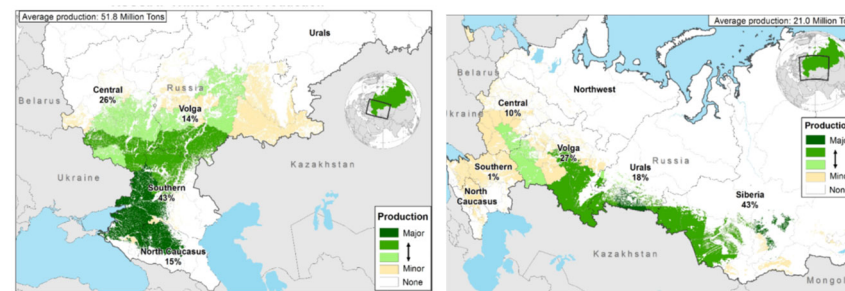
収穫面積(百万ha)	26.34	27.31	28.68 (28.6)	0.08	5.0
単収(t/ha)	2.72	2.70	2.98 (2.98)	-	10.4

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、

「World Agricultural Production」(9 March 2021)

IGC 「Grain Market Report」(25 February 2021)

図 ロシアの冬小麦(左図)と春小麦(右図)の生産地帯



資料: USDA「World agricultural Production」(2021.3.9)をもとに農林水産省で加工

表 ロシアの小麦輸出先国(2021年1月、2020年7月～2021年1月)

	2021年1月			2020年7月～2021年1月		
	国 名	輸出量 (万トン)	輸出シェア (%)	国 名	輸出量 (万トン)	輸出シェア (%)
1	トルコ	63.1	23.2	エジプト	622.4	21.9
2	エジプト	47.1	17.4	トルコ	530.5	18.6
3	パキスタン	22.6	8.3	バングラデシュ	142.4	5.0
4	ジョージア	20.6	7.6	パキスタン	139.9	4.9
5	アゼルバイジャン	13.4	4.9	アゼルバイジャン	118.7	4.2
6	その他	104.6	38.5	その他	1291.9	45.4
計		271.5	100.0		2845.9	100.0

資料: ロシア税関統計をもとに農林水産省で作成 (注)2020/21年度は、2020年7月から2021年6月

2 とうもろこし

(1) 国際的なとうもろこし需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し> 2020/21 年度

生産量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

- ・メキシコ等で下方修正も、インド等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

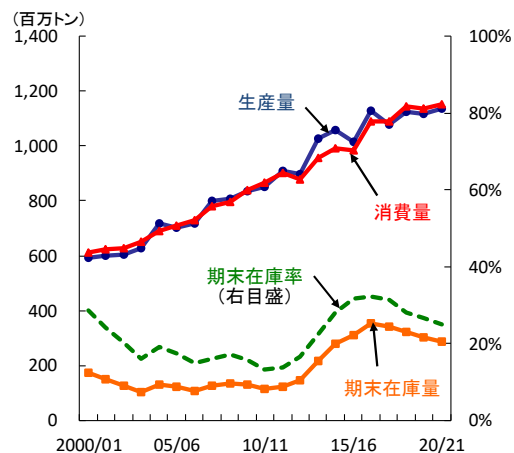
消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

- ・インド、バングラデシュ等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

- ・インド、ベトナム等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

期末在庫量 前年度比 ↓ 前月比 ↑



資料：USDA「PS&D」（2021.3.9）をもとに農林水産省にて作成

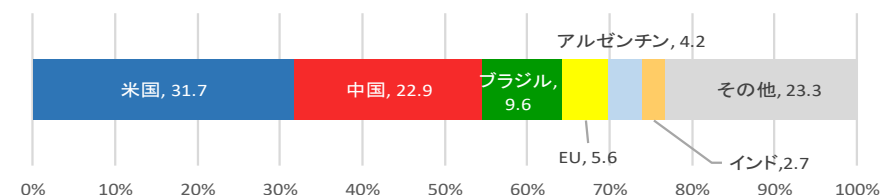
◎世界のとうもろこし需給

(単位：百万トン)

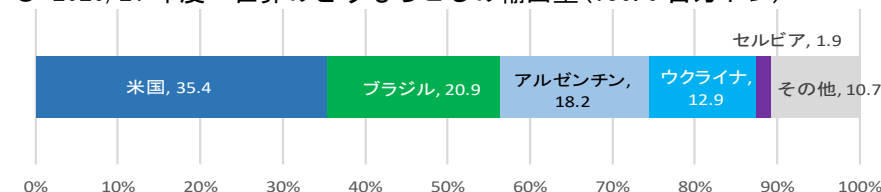
年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値	前月予測から の変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	1,125.0	1,116.5	1,136.3	2.3	1.8
消 費 量	1,144.8	1,134.6	1,151.8	1.3	1.5
うち飼料用	703.9	714.3	728.3	0.9	1.9
輸 出 量	181.7	171.6	186.6	0.9	8.7
輸 入 量	164.4	165.4	179.9	0.9	8.8
期末在庫量	321.2	303.1	287.7	1.1	▲ 5.1
期末在庫率	28.1%	26.7%	25.0%	0.1	▲ 1.7

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(9 March 2021)

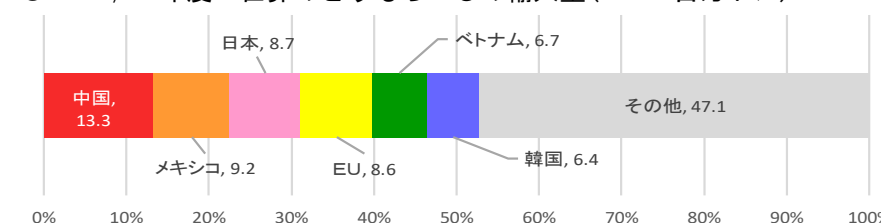
○ 2020/21 年度 世界のとうもろこしの生産量(1,136.3百万トン)(単位：%)



○ 2020/21 年度 世界のとうもろこしの輸出量(186.6百万トン)



○ 2020/21 年度 世界のとうもろこしの輸入量(179.9百万トン)



(2) 国別のとうもろこしの需給動向

< 米国 >

【生育・生産状況】米国農務省（USDA）によれば、2020/21 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、前年度より 4.1%増の 360.3 百万トンの見込み。前年 11 月末時点で、収穫は例年より早いペースでほぼ終了した。

【需要動向】USDA によれば、2020/21 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、前年度より 1.3%減の 305.5 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2020/21 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、前年度より 46.2%増の 66.0 百万トンと史上最高の見込み。中国の家畜の飼養頭数と食肉生産の増加により中国のとうもろこし輸入量が増加することに加え、中国の主要輸入元であるウクライナのとうもろこし生産・輸出量が高温乾燥により大幅に減少することが増加の背景である。

なお、輸出検証高(2021 年 1 月 7 日～3 月 4 日)は、12.5 百万トンであり、内訳は日本 (2.6 百万トン)、メキシコ (2.2 百万トン)、中国 (2.2 百万トン)、韓国 (0.8 百万トン) の順である。

2020/21 年度の期末在庫量は、前年度より 21.8%減の 38.2 百万トンで、2013/14 年度以来の最低水準の見込み。

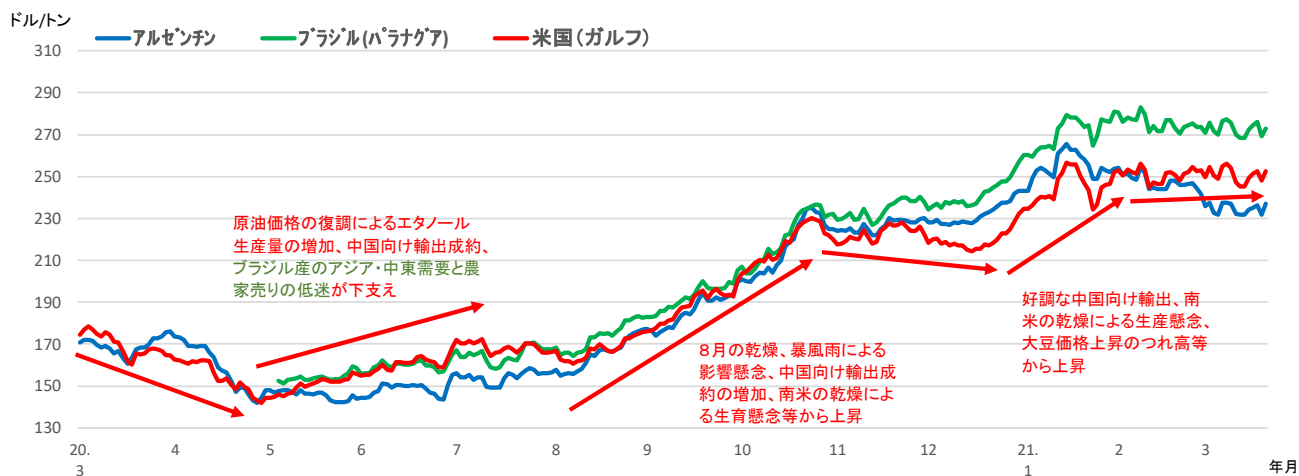
とうもろこし－米国

(単位：百万トン)

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値	前月予測から の変更	対前年度 増減率(%)
生産量	364.3	346.0	360.3	-	4.1
消費量	310.5	309.5	305.5	-	▲ 1.3
うち飼料用	137.9	149.8	143.5	-	▲ 4.2
エタノール用等	136.6	123.4	125.7	-	1.9
輸 出 量	52.5	45.2	66.0	-	46.2
輸 入 量	0.7	1.1	0.6	-	▲ 39.6
期末在庫量	56.4	48.8	38.2	-	▲ 21.8
期末在庫率	15.5%	13.7%	10.3%	-	▲ 3.5
(参考)					
収穫面積(百万ha)	32.89	32.92	33.37	-	1.4
単収(t/ha)	11.07	10.51	10.79	-	2.7

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(9 March 2021)

図：米国、ブラジル、アルゼンチンのとうもろこし輸出価格（FOB）の推移



資料：IGCのデータをもとに農林水産省にて作成

< ブラジル >

【生育・生産状況】USDAによれば、2020/21年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、前年度より6.9%増の109.0百万トンとなり、史上最高の見込み。作付面積は、とうもろこしの国内・国際価格の上昇で、生産コスト増を十分カバーできるため、農家の作付け意欲を刺激し、拡大する見込み。ただし、冬とうもろこしの作付け遅れにより、4月から5月の降雨状況によっては単収低下のリスクがある。

南部のリオグランデドスル州の早植えの夏とうもろこしは3月18日現在で64%が収穫済み。冬とうもろこしの主産地であるマトグロッソ州では大豆の収穫遅れにより冬とうもろこしの作付けが遅れていたものの、3月19日現在で98%が作付済み。ラニーニャ現象に伴う降雨のばらつきについて今後も注視が必要。

なお、ブラジル食料供給公社(CONAB)月例報告(2021.3.11)によれば、収穫中の

2020/21年度の夏とうもろこしの生産量は、乾燥による作付け遅延と生育期の乾燥の影響もあり、特に南部の州で単収が前年度より減少し、前年度比8.6%減の23.5百万トンの見込み。一方、大豆収穫後に作付け中の冬とうもろこしの生産量は作付面積の拡大により前年度比10.1%増の84.6百万トンが見込まれ、合計では前年度比5.4%増の108.1百万トンの見込み。主要産地では、大豆の収穫遅れの影響を受けたが、にわか雨により必要最低限の土壌水分が保たれ、作付けが進展した。(P.20 大豆—ブラジルのクロップカレンダー参照)。

【需給状況】USDAによれば、2020/21年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、前年度より2.2%増の70.0百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2020/21年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、前年度より9.9%増の39.0百万トンの見込み。輸出シェアは世界第2位を維持。(図参照)。一方、輸入量は1.5百万トンの見込み。

ブラジル貿易統計によれば、2021年1～2月の輸出量は3.2百万トンで、前年同期と比べ33%増となっている。内訳は、1位がエジプトで79万トン、2位がベトナムで47万トン、3位がイランで40万トンとなっている。

とうもろこし—ブラジル

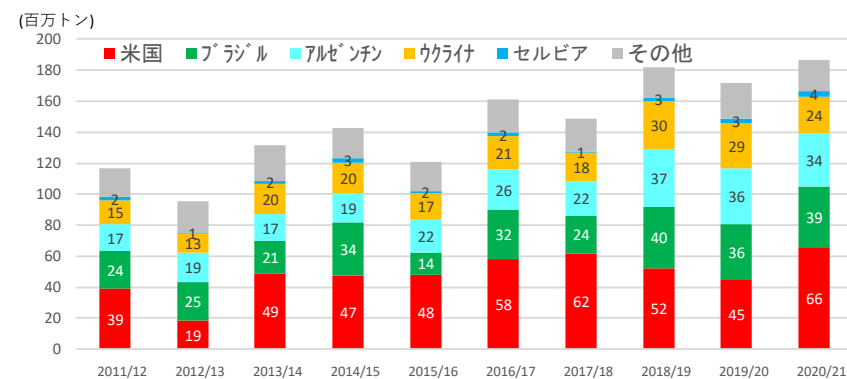
(大豆収穫後に栽培する冬とうもろこしが3/4を占め、夏とうもろこしは1/4)

(単位: 百万トン)

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21			
			予測値、()はIGC		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	101.0	102.0	109.0	(105.8)	-	6.9
消 費 量	67.0	68.5	70.0	(72.4)	-	2.2
うち飼料用	57.0	58.5	60.0	(53.5)	-	2.6
輸 出 量	39.7	35.5	39.0	(36.0)	-	9.9
輸 入 量	1.7	1.5	1.5	(1.0)	-	-
期末在庫量	5.3	4.8	6.3	(5.2)	-	31.3
期末在庫率	5.0%	4.6%	5.8%	(4.8%)	-	1.2
(参考)						
収穫面積(百万ha)	17.50	18.50	19.70	(19.70)	-	6.5
単収(t/ha)	5.77	5.51	5.53	(5.37)	-	0.4

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(9 March 2021)
IGC「Grain Market Report」(25 February 2021)

図：世界のとうもろこし輸出国の輸出量の推移



資料: USDA「PS&D」(2021.3.9)のデータをもとに農林水産省にて作成

< アルゼンチン >

【生育・生産状況】USDA によれば、2020/21 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、前年度より 6.9%減の 47.5 百万トンの見込み。

ブエノスアイレス穀物取引所（2021.3.18）によれば、最近の降雨により生育条件は改善した。収穫進捗率は 6 %で、過去 5 か年平均に比べ 4 ポイント遅れている。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2020/21 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、前年度より 6.1%減の 34.0 百万トンの見込み。

アルゼンチン国家統計局によれば、2021 年 1 月の輸出量は 1.7 百万トンで、前年同期より 9.7%減。内訳は、1 位がベトナム 32 万トン、2 位がペルー 21 万トン、3 位がマレーシア 17 万トン。

アルゼンチン政府は、財政赤字の補填等のため、2019 年 12 月 14 日、輸出税を約 7 %から 12%へ引き上げた。その後、アルゼンチン政府は、国内のとうもろこしの価格の上昇から畜産向け飼料供給を確保するため、2020 年 12 月 30 日、2021 年 2 月 28 日までとうもろこし輸出を停止すると発表した。しかし、国内の農家団体等からの強い抗議行動を受けて、アルゼンチン政府は 1 月 11 日に 1 日当たり 3 万トンの制限付きで輸出を再開する旨発表した。結局、1 月 12 日には当初 12 月末に発表した輸出停止措置そのものを撤回したが、輸出税 12%は継続している。

とうもろこしーアルゼンチン

(単位：百万トン)

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21			
			予測値、() は IGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	51.0	51.0	47.5 (52.0)	-	▲ 6.9	
消 費 量	13.8	13.5	15.0 (21.3)	-	11.1	
うち飼料用	9.7	9.5	11.0 (16.7)	-	15.8	
輸 出 量	37.2	36.2	34.0 (32.5)	-	▲ 6.1	
輸 入 量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	-	
期末在庫量	2.4	3.7	2.2 (3.6)	▲ 0.2	▲ 40.6	
期末在庫率	4.6%	7.4%	4.4% (6.7%)	▲ 0.4	▲ 2.9	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	6.10	6.30	6.10 (7.40)	-	▲ 3.2	
単収(t/ha)	8.36	8.10	7.79 (7.03)	-	▲ 3.8	

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(9 March 2021)
IGC 「Grain Market Report」(25 February 2021)

写真：北部サンタフェ州のとうもろこし圃場の風景

(2月28日撮影)

成熟期を迎え、3月末に収穫予定。



< 中国 >

【生育・生産状況】USDAによれば、2020/21年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、前年度より0.0%減の260.7百万トンの見込み。前年11月上旬時点で、全土のとうもろこしの収穫はすでに終了。

【需給状況】USDAによれば、2020/21年度の消費量は、前月予測から変更はなく、家畜の飼養頭数と食肉生産の増加から飼料用消費量が増加し、前年度より4.0%増の289.0百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2020/21年度の輸入量は、前月予測から変更はなく、前年度より215.8%増の24.0百万トンで史上最高の見込み。

中国の貿易統計によれば、2020年1～12月の輸入量は11.3百万トンで、前年同期の2.4倍。従来からの輸入先であるウクライナ産6.3百万トン（56%）が依然として最も多いが、ウクライナ産とうもろこしの高温乾燥による減産と旺盛な飼料用需要もあり、米国産が4.3百万トン（38%）と前年8月以降急激にシェアを伸ばしている。

農業農村部「農産品供需形勢分析月報2月号」によると、2月の国内流通価格は、黒竜江等中国東北部の主要生産地域でのとうもろこし販売進捗は前年より速く、既に市場に供給できる農家在庫が不足し、2,920元/トンと上昇が継続。一方、米国からの輸出見込量が減少している一方で中国側の輸入需要は旺盛なため、外国産価格も高位にあり、内外価格差は縮小している。

とうもろこし—中国

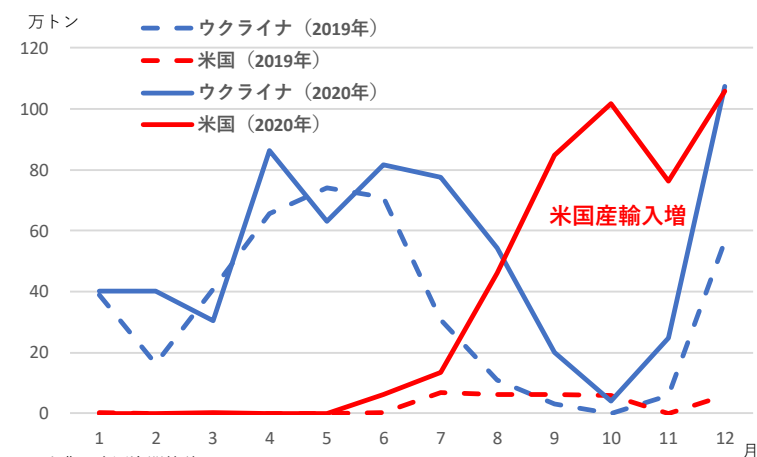
(単位: 百万トン)

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値、() はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	257.2	260.8	260.7 (260.7)	-	▲ 0.0
消 費 量	274.0	278.0	289.0 (293.9)	-	4.0
うち飼料用	191.0	193.0	206.0 (191.0)	-	6.7
輸 出 量	0.0	0.0	0.0 (0.1)	-	100.0
輸 入 量	4.5	7.6	24.0 (23.0)	-	215.8
期末在庫量	210.2	200.5	196.2 (181.6)	-	▲ 2.2
期末在庫率	76.7%	72.1%	67.9% (61.8%)	-	▲ 4.3
(参考)					
収穫面積(百万ha)	42.13	41.28	41.26 (41.50)	-	▲ 0.0
単収(t/ha)	6.10	6.32	6.32 (6.28)	-	-

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(9 March 2021)

IGC 「Grain Market Report」(25 February 2021)

図：中国におけるウクライナ・米国産とうもろこしの輸入状況



出典：中国海関統計

注：2020年1月分と2月分は合計で公表されたため、便宜上1/2で按分